

## 石炭を新しい技術で「光」に

令和4年3月10日記

この冬は、昨年ほどではありませんでしたが、気温が低く、まとまった降雪が多かったこともあり、一時的には厳しい冬であったと思っています。

大変ご苦労様でした。

また、新型コロナウイルス感染症については、国を挙げて対策に取り組んでいますが、今日に至っても終息に至らず、重症化する方が少ないとは言いながら、感染される方が多くなれば、重症化する方が増加することは言うまでもなく、他市とのかかわりが多い本市としては、ある程度の感染者が出ることは覚悟していますが、一方で、高齢化が進んでいる状況を見ると、出来る限り市内での発生を抑え込むよう、努力をしている状況です。

もうしばらくの我慢だと思っていますので、ご辛抱をよろしくお願いいたします。

さて、既にご承知の通り、本市が取り組んできた4大プロジェクトのうち、最後まで方向を出せていなかった石炭の地下ガス化による水素製造研究が、昨年の12月2日に国の機関から採択通知を受け、いよいよ具体的に取り組むための計画を創り、その後、この認可を受けることにより、実証実験に入る段階へと進む見通しになりました。

また、その前に、ヤフー社から寄付をいただいた1億円もこの事業に関連する研究に使うことが出来るため、本年から弥生双葉町において、二酸化炭素を地下の坑道跡に戻す実験が始まります。

取組みを始めてから10年を要しましたが、三笠にとって、新たな時代を築く希望が見えてきたと考えています。

市民の皆さんの応援をよろしくごお願いいたします。

新しい産業を創り出すことは、経済を活性化し、人口減少を抑止し、マチを守る最大の方策です。

本市には、産業を失い、人を失い、マチを疲弊させてきた歴史があります。

まず、しっかりとした産業を根付かせ、将来に不安のない希望をもてるマチを創り出すことが、私の願いであり、責任だと考えています。